

「シジュウカラの営巣(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



巣箱に設置してあるカメラは、赤外線 CCD カメラなので、モノクロ調にしか写らない。実際の巣箱の中は、上の写真のようになっていいる。敷き詰められているのは、ほとんどがミズゴケで、あとは獣毛か人工的な繊維のような綿が取り巻いている。



赤外線カメラでは、真っ白に見える卵も、実際にはこのように淡い模様がついている。この写真は何年か前に、営巣中のシジュウカラが、途中で抱卵を放棄してしまい、巣草ごと取り出して学校に持ち帰り、子どもたちと観察したものだ。



卵は、早朝に1個ずつ順調に産み落とされていった。親鳥は、昼の間はほとんど巣には戻らず、卵は放置されたままだ。昼も抱卵してしまうと、孵化日の差が大きくなってしまふのだ。



6個目も無事産卵。時々、自分で産んだ卵を食べてしまうメスもいるのだが、幸い今回はそうした行動は見られない。



7個目できれいに並んだ、ベンゼン環の完成だ。しかし、親鳥は出ていったので、もっと産みそうだ。